

小児看護学方法論Ⅰ	2年・前期	2単位	講師 宮澤由佳 他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33210742

1. 授業のねらい・概要

健康障害をもつ子どもと家族を含めた看護の基本となる概念と援助について学習する。また、一人ひとりの子どもの権利を擁護し、子どもに安全で安楽なケアを提供するための、根拠に基づいた看護援助について学習する。

2. 到達目標

1. 子どもと家族との援助関係が理解できる。
2. 子どもの発達段階を考慮したアセスメントが理解できる。
3. 子どもの発達段階を考慮した看護技術が理解できる。
4. 検査・処置を受ける子どもと家族の援助が理解できる。
5. 健康障害を持つ子どもにとっての遊びの意味と必要性が理解できる。

3. 授業の進め方

講義・演習を行う。視聴覚教材およびグループワークを取り入れ、内容理解を深める。自己学習ができるように課題を与える。

4. 授業計画

1. 援助関係を形成する技術 (宮澤由佳)	8. 小児看護技術③ (宮澤)
2. 身体のアセスメント① (市村路子)	〈症状生体機能の管理技術, 救急救命技術〉
3. 身体のアセスメント② (市村)	9. 小児看護技術④ (宮澤)
4. 症状を示す子どもの看護① (宮澤)	〈環境調整技術, 安全・安楽を確保する技術〉
5. 症状を示す子どもの看護② (宮澤)	10. 小児看護技術演習① (宮澤)
6. 小児看護技術① (宮澤)	11. 小児看護技術演習② (宮澤)
〈食事援助, 排泄援助, 清潔・衣生活援助〉	12. プレパレーション演習① (宮澤)
7. 小児看護技術② (宮澤)	13. プレパレーション演習② (宮澤)
〈呼吸・循環を整える技術, 与薬技術〉	14. プレパレーション演習③ (宮澤)
	15. プレパレーション演習④ (宮澤)

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は2/3以上出席した者）70％，レポート課題等30％で総合的に評価する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：系統看護学講座 小児看護学 1 小児看護学概論・小児臨床看護学総論 医学書院
系統看護学講座 小児看護学 2 小児臨床看護各論 医学書院
小児看護技術 改訂第3版 インターメディカ

7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準ずる程度の具体的学習内容

次回講義内容のテキスト該当箇所の予習（30分程度）と復習（30分程度）をすること。

8. 受講上の留意事項

小児看護学概論で学習した内容と関連させながら主体的に参加することを期待する。小児看護学実習の先修科目である。

9. 課題に対するフィードバックの方法

試験実施の際に傾向や解答を口頭で説明するか試験実施後解答を掲示する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と街頭授業科目との関連

必修科目であり、修得できない場合進級不可となる。